

RS ウイルス感染症って？

1 : はじめに

「RS ウイルスが流行」と最近どこかで耳にした方も多いのではないでしょうか？しかし「RS ウイルス」というものがどんな感染症で、どんな症状が起こるのか知っていますか？

RS ウイルス感染症とは RS ウイルスによる呼吸器の感染症です。赤ちゃんの時期に発症することが多いと知られており、毎年保育園や幼稚園などの子どもが多く集まる場所で流行しています。

今回は、RS ウイルスの特徴や症状、予防法などについて紹介します。

2 : RS ウイルスの特徴

特徴の 1 つは、感染力が非常に強いことです。何度も感染と発症を繰り返し、生後 1 歳までに半数以上、2 歳までにはほぼ 100% の赤ちゃんが感染するといわれています。基本的には軽症で済みますが、まれに肺炎などを起こし重症化することがあります。

毎年 9 月頃から流行し初春まで続くとされてきましたが、近年では 7 月頃から流行し始め、9 月頃にピークを迎えます。しかし、2020 年は新型コロナウイルスの対策で社会的活動が制限されていたためかほとんど流行せず、2021 年は患者数が 2 年前と比べて約 8 倍、前年と比べて約 600 倍と大流行しました。2021 年の流行時期が早まったのも、2020 年にほとんど流行が起らなかったために感染したことがない子どもが増え、例年より流行が起りやすくなったと考えられています。2022 年も例年より早いスピードで増加しており注意が必要です。

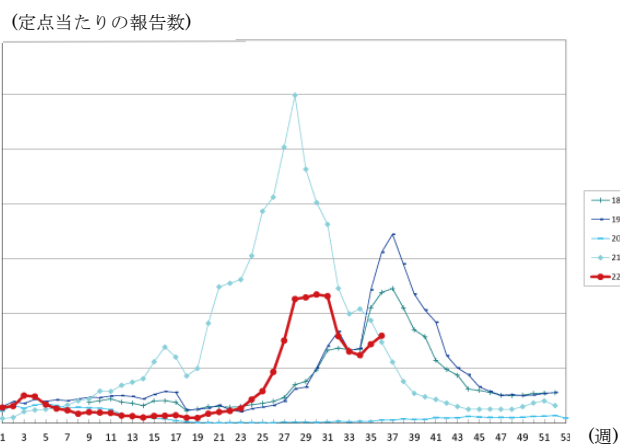


図 1. 全国の RS ウイルス感染症の患者届出数
国立感染症研究所のホームページより

インフルエンザと同じように鼻の粘膜を綿棒などで取ることで検査ができますが、軽症であれば検査をせずに RS ウイルス感染症だと考えたうえで、風邪と同じ治療をすることが多いです。肺炎を起こしている可能性がある場合は、レントゲン写真を撮影して症状がどのくらい深刻なのかを調べてから治療をすることもあります。



3：どんな症状？

主な症状は水のような鼻汁やひどい咳、38℃以上の発熱です。風邪と似たような症状ですが、重症になると呼吸回数が早くなったり、呼吸の度に胸がへこむようになり、肩で呼吸するようになりという症状が生じることがあります。酸素が足りなくなるとチアノーゼ（顔色や全身の色が悪くなる）の症状もみられます。多くは1週間ほどで改善しますが、1歳未満（特に6か月未満）の赤ちゃんや心臓や肺に基礎疾患がある子ども、早産や低体重で生まれた赤ちゃんなどは重症化するリスクが高くなります。

ゼエゼエ、ヒューヒューと苦しそうな呼吸をしている、呼吸の度に胸がへこむようになり、肩で呼吸するようになりしている、強い咳をしているなどの症状が1つでも当てはまった場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

4：治療法は？

RSウイルス感染症には特効薬がないため、症状を和らげる「対症療法」での治療になります。まず、多くの場合発熱を伴うため「解熱剤」を使用します。鼻水や痰をウイルスと一緒に体外へ出すためには「去痰薬」を使用します。呼吸が苦しいときには「気管支拡張薬」という気管支を広げて呼吸を楽にする薬を使用します。以下の表に子どもによく使用される代表的な薬を示します。

解熱剤	アセトアミノフェン（カロナール [®] 20%）
鎮咳薬	チペピジンヒベンズ酸塩（アスベリン [®] 散）
去痰薬	アンブロキシソール（小児用ムコソルバン [®] DS1.5%）、 L-カルボシステイン（ムコダイン [®] DS50%）
気管支拡張薬	ツロブテロールテープ（ホクナリン [®] テープ）

5：予防する方法は？

感染経路は主に飛沫感染（くしゃみや咳、感染者と話すことによって細かい唾液が飛んできて感染する）と接触感染（ウイルスが付いたものに触った手から口や眼などにウイルスが入ることで感染する）とされています。そのため、感染を予防する方法は子ども本人や周りの大人がしっかりと手洗いをすることです。アルコールの手指消毒も有効的です。保育園や幼稚園、学童などたくさん子どもが集まる場所では、こまめに子どもたちが使用するおもちゃや、触れた場所の消毒をすることで感染リスクを下げることができます。また、マスクを着用することや人混みを避けるなどの対策も有効です。

重症化予防のための「シナジス[®]」という注射薬もあります。2013年に発売された薬で、流行期に毎月投与することで重症化を防ぎます。しかし、早産で生まれた子どもや心臓や肺に基礎疾患がある子どもなど、一部の重症化リスクが高い子どもに限られ、ほとんどのケースでは投与することができません。そのため、感染をしないための対策をしっかりとることが大切になってきます。対策をしっかりとって感染をしない・させないようにしましょう。



参考資料：RSウイルス感染症 <https://medley.life/diseases/55069f6f6ef4585b3a85d1ed/>
三重県感染症情報センター https://www.kenkou.pref.mie.jp/disease_rs_virus_infection.html
メディカルノート <https://medicalnote.jp/diseases/%E6%80%A5%E6%80%A7%E7%B4%B0%E6%B0%97%E7%AE%A1%E6%94%AF%E7%82%8E>

文責：村田佳穂（実習生）、葛西樹里